ゐのはな

千葉大学医学部同窓会報　第199号　題字　故鈴木五郎（大11卒　元ゐのはな同窓会長）

編集発行者
千葉大学医学部
ゐのはな同窓会報編集部
〒260-8670　千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
ゐのはな同窓会
電話（043）202-3750
FAX（043）202-3753
e-mail：info@inohana.jp
HP：https://www.inohana.jp/

年頭の挨拶

ゐのはな同窓会の充実と発展

ゐのはな同窓会長　吉原俊雄（昭53）

新年明けましておめでとうございます。一昨年に千葉大学医学部創立150周年を迎え、昨年は新たな歴史の1頁を刻む年でありました。本年はホップ・ステップ・ジャンプのステップの年になると思います。最近の医療を取り巻く情勢は厳しく、診療所、病院、とくに国立大学医学部附属病院の厳しい現状が叫ばれています。このような時代においても、同窓会として為しえることに限界はありますが、学生さんへの支援、医学部および病院への支援、なによりも同窓への支援を会員の先生方のご意見を頂きながら活発な組織にしていきたいと考えております。昨年までは創立150周年記念事業（メモリアル事業）として、医学部の伝統や歴史を見直す仕事が中心となりました。今後は、貴重な資料保存のデータ化は継続し、千葉医学の伝統の継承はもちろんですが、学生・職員も使用する同窓会館の保守管理、全国各支部や地域の「ゐのはな」を冠とした集まりへの活性化のため支援に務めて行く所存です。また、千葉大学全体の活性化が医学部の活性化に不可欠です。昨年からその一環として、他学部の同窓会との交流を開始し、同窓会の役割、為し得ることなど情報交換しました。同窓会と学部との良好な関係構築など、お互いにとってヒントとなる取り組みなど、他学部同窓会との情報交換を続けるつもりです。医学部および大学全体の活性化に少しでも貢献できればと考えています。

ここ数年はゐのはな同窓会を単独で開催しておりましたが、それ以前のように大学支部、東京ゐのはな会、千葉県ゐのはな会の各総会に合わせて、3支部が持ち回りで行う形式を復活しました。大学支部は現職教授が主体で他支部のように役員が多数いるわけではなく負担はあるかと思いますが、同窓会事務局が協力して行く予定です。総会は6月の第2土曜日として、昨年は大学支部担当でした。令和8年度は東京ゐのはな会担当、その翌年は千葉県ゐのはな会が担当となります。

最後に同窓会へのご支援の継続と会報への寄稿文の投稿もよろしくお願いいたします。本年が素晴らしい年となること祈念いたします。

最終講義のご案内

薬学研究院　分子心血管薬理学
高野　博之　教授
日時　2026年2月13日（金）午後3時より
場所　薬学部120周年記念講堂
演題　医学と薬学の連携をめざして

フロンティア医工学センター
林　秀樹　教授
日時　2026年2月6日（金）午後3時30分より
場所　未定（工学部内）
演題　大学で何を学んだか～これから翔び立とうとする人たちへのメッセージ～

祝叙勲

令和7年　秋の叙勲
旭日双光章
志村　壽彦（昭44）
登坂　薫（昭50）

ゐのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第三一回（二〇二六年度）ゐのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

①社会貢献賞　本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

②功労賞　医療および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学ゐのはな同窓会に多大の貢献をした会員。

二、表彰

①社会貢献賞（二件以内）　盾および賞金（総額二十万円以内）を贈呈します。

②功労賞（二件以内）　盾および賞金（総額二十万円以内）を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇二五年十二月一日から二〇二六年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇二六年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、ゐのはな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、ゐのはな同窓会事務室
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

紙面紹介

年頭の挨拶　1
学生教育　13・18
学部同窓会・同窓会長訪問記　2
会員から　14
就任挨拶　3
課外活動団体だより　15
人事異動　3
欧州医学史巡り　16
受賞の挨拶　3
著書紹介　16
各地ゐのはな会　4～6
追悼文　16
役員紹介　4
地区ゐのはな会報　17
クラス会　6～7
議事要旨　19
ホームカミングデー　8～10
編集後記　20
学内情報　11～12

学部同窓会・同窓会長訪問記

千葉大学園芸学部同窓会 戸定会（とじょうかい）を訪ねて

ぬのはな同窓会長　吉原俊雄（昭53）

令和7年11月2日に千葉大学校友会（会長：横手幸太郎学長）の総会が開催され、今年度の副会長として園芸学部同窓会「戸定会」会長の齋藤京子様とともに医学部ぬのはな同窓会長の2名が選出されました。校友会総会・幹事会は西千葉キャンパスでZOOM参加や対面の会議が開催されていますが、これまで直接他学部の先生方、同窓会の方々と意見交換する機会は少ない状態でした。この度、校友会本部にその旨お話しし、2025年10月3日に園芸学部（松戸キャンパス）を訪問していろいろなお話しを伺う機会をいただきました。戸定会の齋藤会長は園芸学部を1976年にご卒業され、農水省に入省、退職後も様々な団体役員の経歴を経て、2024年から戸定会会長に就任されています。齋藤会長は亥鼻キャンパスを訪れたことはなく、一方で小生も松戸キャンパスは初めての訪問であり大変興味深く刺激的な経験でした。当方からは大学勤務後に安西尚彦副会長に合流してもらい、戸定ヶ丘ホールにて懇談となりました。齋藤会長はじめ戸定会事務局の佐藤和美様、宇佐見慶子様と共にキャンパスの散策、会報のバックナンバーや園芸学部の同窓会の取り組みの資料も多数いただき、学生支援の現状について説明いただきました。また、新しい図書館では図書館員の方から館内の新しい機能や蔵書の説明を受けました。園芸学部ならではと思いますが、広いキャンパス内は多くの木々、植物がみられ、フランス式庭園、イタリア式庭園などよく手入れされ景観が保たれていました（写真）。松戸をはじめ西千葉、亥鼻キャンパスはいずれも緑が多く千葉大学ならではの特徴と良さを再確認しました。同窓会「戸定会」の現状として会員数は2万人弱で、総会、常任理事会は各年1回、会報は年1冊の発刊ですが、戸定会パートナーシップ会議は15人ほどで毎月開催されていて、同窓会役員と現職の学部長も交えての会議ということで、有益な情報共有ができるとのことです。写真にある会報表紙にはNHK朝ドラの「らんまん」の主人公の牧野富太郎先生の図があり、牧野先生は千葉園芸専門学校で教鞭をとられていたこと、今回の訪問で初めて知ることができました。会費は入学と同時に学生会員（約200名）となり4000円、卒業後に正会員となり生涯会員となるとのことでした。2011年に創立100周年記念事業として、今回懇談の場となった「戸定ヶ丘ホール」が建設されたそうです。2029年には園芸学部創立120周年を迎えられるとのことで様々な企画がなされることと思います。

この度、校友会の関係で、学生時代含めてお邪魔したことのなかった松戸の園芸学部訪問ができたことは、ぬのはな同窓会にとって有意義でありました。今後も他学部同窓会の状況などを伺うことで医学部同窓会の運営にも多くのヒントが得られるものと思います。

戸定会の皆様と

フランス式庭園

英国式庭園

戸定会報

就任挨拶

千葉大学真菌医学研究センター
臨床感染症分野　教授
渡邉　哲（平5）

このたび令和6年10月1日付で亀井克彦前教授の後任として千葉大学真菌医学研究センター臨床感染症分野教授を拝命いたしました渡邉哲と申します。国公立大学で我が国唯一の真菌研究専門の全国共同利用・共同研究施設の分野を担当することとなり、身の引き締まる思いでおります。

私は平成5年に本学医学部を卒業し、呼吸器内科に入局しました。その後感染症学、とりわけ真菌学に興味を抱き、亀井先生の門を叩き、平成11年より当センターで亀井先生のご指導を賜ってまいりました。

現在私は主に病原真菌の薬剤耐性メカニズムの解明、真菌の生体内での挙動や宿主反応の解析（生体内環境適応、バイオフィルム形成や好中球のバイオイメージング）、診断法の開発、抗真菌薬の開発、深在性真菌症の疫学調査などに取り組んでいます。並行して真菌症リファレンスセンターとして、国内の医療機関から真菌症についてのコンサルテーションを受け、分離菌株の解析も行っています（年間で500−600件程度）。また、地域流行型真菌症（いわゆる輸入真菌症）の侵淫国であるブラジルとの国際共同研究を長く続けており、現在もブラジルからの留学生を複数受け入れています。

一般にウイルス、細菌、寄生虫、真菌は四大病原微生物とされていますが、真菌は他の3つと比べ顧みられることが少ない病原体です。ご存じの先生もいらっしゃるかと思いますが、例えば文科省科研費の審査区分表（小区分）では、［寄生虫学関連］［細菌学関連］［ウイルス学関連］がある中で［真菌学関連］は独立した項目はなく、［細菌学関連］に含まれている状態です。ただ、真菌がneglectされているというのは世界的にも普遍なようで、WHOは真菌及び真菌症に従事する研究者が乏しくまた投入される研究費が少ないためにこの領域の研究開発が著しく遅れていることについて警鐘を鳴らし、2022年、2025年と矢継ぎ早に文書を公表しています。真菌研究者にとってはこれらのWHO文書はまさに百万の味方を得たように認識されたと言えます。

今後はより一層、真菌症のマネジメントの改善を目標とした研究に全力で取り組む所存です。同窓会の皆様方には倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

人事異動

講師

歯科・顎・口腔外科
伊豫田　学
（九州歯科大・平16）

他大学教授

名古屋市立大学大学院医学研究科　先進救急災害医学
船越　拓（平17）

受賞の挨拶

昭和天皇記念学術賞を受賞して
東京大学名誉教授・山梨県立病院機構理事長
小俣　政男（昭45）

平成元年、昭和天皇、皇太后陛下のご意思により日本赤十字社に設立された「昭和天皇記念学術賞」を拝受いたしました。天皇陛下の名を冠し、B型肝炎ウイルス発見・ノーベル賞受賞者BS Blumberg、ウイルス学大河内一雄・日沼頼夫、血液学中尾喜久、肝臓病学織田敏次先生方のお名前を受賞者に拝見し、身の引き締まる思いが致しました。去る7月16日、第61献血運動全国大会で日本赤十字社名誉副総裁秋篠宮皇嗣妃殿下より、ご授与いただきました。受賞理由は、国民病であった肝炎ウイルスの予防・感染ルートの解明と治療に関する研究に専念した点であるとされました。研究は、米国6年（Yale・USC）中に開始、千葉16年、東大17年、山梨16年、常にウイルス撲滅を目指してまいりました。転機は1979年、米国6年病理修練終え、帰国、しかし、画像診断登場で、生検の臨床意義が薄れ、〝呆然自失〟の中で耳にした〝A, C, G, T〟を恩師奥田邦雄（Hopkins生化学助教授）先生尋ねるも、いつもほど明確でない。瞬間〝未来がある〟と考え、1982年Blumberg研究室に再渡米、当時としては異端ともいえる遺伝子を扱う小さな研究室が臨床の内科教室で始動しました。横須賀收先生らが加わり、さらに1989年、C型肝炎の発見により、国民病の8割がウイルス由来と判明、成果をNEJM, Lancetを介し、*Chiba*から世界に発信いたしました。

1992年春、東京大学から、ご連絡いただき、4月第二内科に赴任、基礎系では多田富雄先生がおられ、臨床系ではじめてとのことでした。1998年、新たな「消化器内科」で、若き俊英に恵まれ、〝患者さんの為に世界に発信を〟に17年間努め、多くの英語論文、年間1,000例肝癌治療、自らは約2,000名の肝疾患患者さんを診断、治療致しました。2008年秋、山梨県の打診・赴任、しかし、そこは地方病（日本住血吸虫症）関連の日本有数のC型肝癌発生地区でした。2013年、治癒率の低いインターフェロンでなく、副作用なく、100％駆除可能な理想の薬剤開発を目指して全国治験を開始。その結果、2015年全国で治療が始まり、それから10年、肝臓の臨床は一変し、肝癌、非代償性肝硬変、吐血の患者さんが激減しました。私の外来も笑いのある、明るい場となりました。

この54年間、かつては「ウイルスが肝臓病を起こす」など想像もされない時代から、その診断と治療にたずさわり、疾患の消失の可能性すら起こるという体験を致しました。この間、共に歩んでくれた若き俊英らと、キッチンに立ち栄養管理をする妻、紀代にただ「感謝」あるのみです。

末筆となりましたが、ゐのはな同窓の諸先生方のご発展を祈念し、寄稿の機会を賜りました会報編集委員会に深謝致します。

略　歴

＜経歴＞

1945年山梨県生まれ
▽1970　千葉大学医学部卒業
▽1973　米エール大学、南カリフォルニア大学で肝臓病の研究（6年間）
▽1984　千葉大学医学部第一内科講師
▽1992/4　東京大学医学部教授（第二内科）
▽1997/4　東京大学院医学研究科教授（消化器内科）
▽1998/4　東京大学医学部附属病院副院長・院長補佐
▽2009/3　東京大学教授退官、東京大学名誉教授
▽2009/4　山梨県特別顧問、国際医療福祉大学大学院教授（～2010/3）
▽2010/4　地方独立行政法人山梨県立病院（中央・北）機構理事長、現在（2025）に至る。

＜学術活動＞

英文論文：1,299
総引用回数：107,477
H-INDEX：166（Google Scholar）
2025年10月7日現在

＜学術賞＞

平成15年度（2003年）　織田賞（日本肝臓学会賞）（第7回）
平成15年度（2003年）　千葉大学医学部ゐのはな同窓会賞（功労賞）
平成29年度（2017年）　日本消化器病学会学術賞（第1回）
令和7年度（2025年）　昭和天皇記念学術賞（第34回）
令和7年度（2025年）　国際賞APDW Federation Meritorious Award（第2回）

ゐのはな同窓会地区会長挨拶

山梨ゐのはな会　会長就任の挨拶

山梨ゐのはな会
会長　鶴田好孝（昭54）

このたび、前任の中澤肇先生（昭52年）から会長を引き継ぎました鶴田好孝と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は千葉大学医学部を昭和54年に卒業後第一外科に入局、平成12年まで千葉市内の関連病院に勤務した後、故郷の山梨に戻り平成14年にクリニックを開業しました。しかし故郷とはいえ長年離れていたため周囲には顔見知りの医師はおらず心細い思いをしていました。そんな折、山梨ゐのはな会に誘われ前会長の中澤先生はじめ何名かの顔見知りの先生にお会いし大変心強い思いをした事を覚えています。そしてその時お会いした先生方にはその後も大変お世話になる事になりました。

そして二十数年がたち私が会長職を拝命することとなりました。中澤肇前会長、清水天前々会長（昭39）は医師としても人間的にも優れ、リーダーシップを発揮されてきました。先輩方に比すると私の能力不足は明らかですが、事務局を古屋好美（昭53）、細田和彦（昭58）両先生に担当頂き、助けてもらいながら頑張りたいと思います。

山梨ゐのはな会の現在の会員数は24名と少数です。最近は山梨大学医学部の教授に就任され入会される先生がおります一方山梨出身者が入会することは稀です。新規入会者が少ないのは地方のゐのはな会に共通する悩みではないかと思います。現時点で当会会員の平均年齢（卒業年度からの推定）は66歳となり会員の高齢化もまた問題です。総会への出席者は高齢者が参加できなくなる一方、比較的若い先生方の出席数が伸びず、参加人数が徐々に減少しています。同窓会に対する考え方も多様化していることに寂しさも感じます。総会が同窓会として懐かしさと親睦のみならず、情報交換の場としても会員が気楽に参加し話ができるような会となるよう努めてまいりたいと考えております。

微力ではありますが会が継続、発展できるよう尽力いたしますので何卒宜しくお願い致します。

各地ゐのはな会だより

静岡ゐのはな会

さる7月19日、静岡ゐのはな会総会が静岡市のホテルグランヒルズで開催された。猛暑の中参加してくれた会員は15名で、人数は例年並みであったが、新規に参加してくれた方もおり、今回は本部の吉原会長も参加されるなど新しい動きもみられた。

総会自体は淡々と進んだが、この1年で亡くなられた会員が5名もおられたのはこの会の高齢化が進んでいることの現れだったかもしれない。謹んで黙祷を捧げた。総会の最後に、吉原会長から現在ゐのはな同窓会が取り組んでいる様々な事業についてスライドを用いて紹介があった。ゐのはなキャンパスの変貌も会員

写真右から
前列：山本俊樹（昭51）、菅ケ谷純弘（昭45）、吉原俊雄会長（昭53）、宮本恒彦（昭54）、樋口佳則教授（平4）、難波宏樹（昭54）、土川秀紀（昭44）、天神弘尊（昭45）
後列：相庭温臣（平4）、中山貴裕（平3）、赤倉功一郎（昭59）、鉄治（平1）、尾崎正時（昭58）、高橋敏信（昭52）、村上直人（昭58）、笠松紀雄（昭56）、名古良輔（昭54）

（敬称略）

令和7年度　ゐのはな同窓会　新理事就任挨拶

千葉大学ゐのはな同窓会
理事
中田孝明（平11）

千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学教授の中田孝明（平成11年卒）と申します。このたび、ゐのはな同窓会理事を拝命いたしましたが、微力ではございますが、母校と同窓会のさらなる発展に貢献できればと存じます。

現在は、医学生・大学院生の育成、救急外来および救命救急センターでの診療、そして敗血症や臓器障害に関する研究に取り組んでおります。学生時代は水泳部に所属し、現在は顧問として学生たちを支援しています。

卒業後も、こうして母校や同窓の皆さまとつながりを持てることに感謝しております。今後とも、世代を超えて絆を深める場づくりに尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

にとって新鮮な情報になった。

今年の学術講演には本学脳神経外科の樋口佳則教授にお願いした。脳神経外科の講座が誕生してからの発展を振り返りながら、樋口教授が目下力を入れられている機能的脳神経外科の現状を語られた。実は浜松医大の初代教授である植村研一先生（昭34）が千葉大学で最初に定位脳手術を手掛けられていたという話も出た。話題としては馴染みのない会員もおられたと思うが、パーキンソン病、認知症さらに意識障害などに関連した取り組みは目を見張るものがあったのではないだろうか。専門外の領域の現状を知ることができるのも同窓会の一つの意義であろう。

懇親会ではそれぞれ自己紹介をしながら交流を深める場になった。同じ医師でも仕事の仕方や経歴は様々で、そのような話を伺うことも楽しいことである。静岡県

は東西に長いこともあって日常的な交流がしにくい事情があるが、やはりこうして年に1度でも顔を合わせて、世代を超えて同窓としての新たなつながりができることの意義を再確認出来たように思う。このような縁を大切にして仕事や日常生活を充実させたいものである。

（宮本恒彦）

埼玉ゐのはな会

令和7年度 埼玉県支部総会報告

去る令和7年10月19日（日）に東天紅JACK大宮店にて開催されました。昨年度より群馬県支部との合同開催となっており、総勢29名が参加されました。

総会においては、吉澤卓先生のご司会のもと、先ず、今年お亡くなりになられた以下の支部会の先生方に全員で黙祷を捧げました。（小原康史先生（昭45）、砂倉瑞良先生（昭37）、木村広子先生（昭32）、木下仁一先生（昭53）、新井邦男先生（専23）（物故日順））そして支部長の吉川廣和先生よりご挨拶がありました。吉川先生は今年度での支部長の退任を希望されており、会員総意の上で了承されました。次期支部長については今後、幹事会で人選を行うこととなりました。また、令和6年度の会計報告が中村勉先生、その監査報告が林田和也先生よりなされ、了承されました。中村先生からも今年度にての退任のご希望が表明され、幹事会で今後人選を進めることとなりました。続いて、本年、米寿、喜寿を迎えられた先生方のご紹介があり、参加者全員で祝福されました。続いて、埼玉ゐのはな会　会誌の編集部報告、千葉大学ホームカミングデー、卒後50年基金の活用などの議題についての報告、討議が行われました。次期幹事については大宮地区が担当となり、植松武史先生、甲嶋洋平先生（平2）を中心に企画等をお願いすることとなりました。

講演会は千葉大学大学院医学研究院　救急集中治療医学教授　中田孝明先生より『敗血症と救急集中治療研究の最前線＝挑戦と展望＝』と題し、行われました。中田先生がこれまで係わっておられた敗血症ガイドラインの作成、AIを用いた研究、そして千葉の救急体制のデジタル化を進めて省力化、待機時間の短縮につながる取り組みについてのお話がありました。伝統のある救急集中治療医学講座のこれまでの蓄積に加えて、デジタル技術、AI技術を積極的に取り入れられ、大きく変化する集中治療の世界を参加者全員で感嘆とともに拝聴しました。

続いて、懇親会が開催され、永田一郎先生のご挨拶、諏訪敏一先生の乾杯の音頭に引き続き、参加者全員の近況報告がなされました。昨今の医療事情の変化によるいろいろなご苦労もある中、皆様がそれぞれのお立場でご活躍なさっていることが伝わってきました。

今回の支部総会には獨協医科大学埼玉医療センター小児科主任教授に今年度からご就任された髙谷具純先生をはじめ4名の初参加の先生がいらっしゃっておりました。その中の2名はまだ30代の若手であり、今後、このような若手の参加者を増やしていき、より会を盛り上げていければと考えております。このような中、全員での写真撮影の後、支部会総会は盛会裏で終了しました。

（文責：吉富秀幸）

写真右から

前列：吉富秀幸（平2）、諏訪敏一（昭43）、岡本和久（平2）、五月女直樹（昭49）、中田孝明（平11）、吉川廣和（昭40）、永田一郎（昭35）、中村勉（昭52）、赤井壽紀（昭43）、吉澤卓（昭53）

中列：新村兼康（金沢大・平4）、上野泉（昭53）、杉浦敏之（昭63）、石川文彦（平2）、植松武史（昭55）、今野慎（昭62）、伊藤博（昭56）、林田和也（昭52）、丸山隼太郎（平28）、原繁（昭53）

後列：冨澤聡史（秋田大・平25）、平山信男（平8）、今村隆明（平8）、髙谷具純（平15）、中島透（昭56）、溝口孟（令3）、藤間泰（昭59）、斎藤雅彦（平3）、小野崎郁史（昭59）、門野源一郎（平6）

茨城ゐのはな会

令和7年度 茨城ゐのはな会開催報告

令和7年度の茨城ゐのはな会総会は、2025（令和7）年10月26日14時からJR水戸駅近くの水戸京成ホテルで開催され、関連の会員の先生方17名が出席されました。

仁平武副会長（金沢大・昭58）の司会のもと、松前孝幸会長（昭52）が開会の挨拶を述べられました。本年度が会長としての最初の年度であり、今後の抱負についてお話になりました。続いて、石川詔雄前会長・現顧問（昭47）から、現在関わっておられる保険診療指導についてのお話がありました。次いで、この1年間に亡くなられた大木勲先生（昭38）、荻原奉祐先生（昭46）のご冥福をお祈りして黙祷が捧げられました。

議題に沿って現行役員が紹介され、続いて新役員候補として金子健太郎先生（平3）が副会長に、鈴木英一郎先生（平15）が幹事に推薦され、承認されました。また、新入会会員の田中政道先生（平9）が紹介されました。続いて令和6年度の会計報告があり、承認されました。

事務報告に続いて、講演会が行われました。特別講演1では、ゐのはな同総会副会長・千葉大学医学部薬理学教授の安西尚彦先生（平2）から「腎臓の尿酸トランスポーターと血清尿酸値制御」と題するお話がありました（座長：山崎正志副会長（昭58））。特別講演2では、ゐのはな同総会会長・元東京女子医大耳鼻咽喉科教授の吉原俊雄先生（昭53）から「興味ある唾液腺疾患　千葉大学ゐのはな同窓会報告」についてのお話がありました（座長：松前孝幸会長）。講演会の後は、出席者全員で写真撮影を行いました。

引き続いて懇親会が行われました。深尾立先生（昭39）の乾杯に始まり、ホテルの中華料理を味わいながら歓談に花を咲かせました。懇親会半ばからは、ご参加の先生皆様からの近況報告がありました。最後に、諸岡信裕幹事（金沢大・昭48）から中締めの挨拶があり、散会となりました。

本会は1年ごとに水戸とつくばで交互に開催されており、来年度はつくばでの開催を予定しております。多くの先生方にご参加いただき、会員同士の交流を

図っていきたいと思います。

（文責：山崎正志）

写真右から

前列：竹島徹（昭41）、中島道也（長崎大・昭42）、吉原俊雄（昭53）、松前孝幸（昭52）、安西尚彦（平2）、深尾立（昭39）、石川詔雄（昭47）

中列：神谷努（昭41）、高田俊一（昭52）、諸岡信裕（金沢大・昭48）、仁平武（金沢大・昭58）、松浦朋子（平5）、山崎正志（昭58）

後列：遠山政彦（弘前大・昭58）、金子健太郎（平3）、田中政道（平9）、高橋宏（平15）

（敬称略）

クラス会

昭和43年卒、卒後57年クラス会

卒後57年、43クラス会が2025年11月3日、恒例の東京ステーションホテル、陽光の間で午後1時から集合写真、計30名（同伴者1名）は、冒頭今年亡くなった青木君、長谷川（洋）君と計30名の慰霊に黙祷を捧げスタート。事務会計の現状報告に続き、上海からの楊思勝君の乾杯音頭を皮切り後、ビュッフェスタイルの美味しい料理と酒類をともに、各人3分間のスピーチ、司会からの時間制限はうまく守られ、この人誰だっけという位、久しぶりの出席者もいて、それぞれの日常、仕事、体調管理など現状について語られた。フルタイムで施設長や診療を続けている元気な人、週2、3回の診療の人、そろそろ引退をと悩んでいる人もいるが、大部分の人は何らかの医療、福祉関係に従事されている。

欠席者20名からのコメントでも半数の人が仕事をしていたが、リタイアを考える人もいて、欠席理由では移動困難な人、体調がすぐれない人、遠出は控えている人、連絡なく欠席した友人の状況について知る人に報告してもらうと、何とかやっているようだが、体調、身体的具合で出席を躊躇している様子がうかがえた。

出席者の中で、ミセスオブザイヤーで日本大会から来年の世界グランプリを目指し日々トレーニングしている人、剣道錬士として活躍している人、週2回のゴルフや、ウオーキング、水泳、テニス、ドライブ、旅行を自分の為に楽しんでる仲間もいて、サルコペニア、フレイル、介護予防には皆励んでいる様子がうかがえる。43卒は節目節目に母校、同窓会に寄贈してきている。桜の木の植樹を初めとして、楊思勝君の中国書画「赤壁の賦」（43人が船に遊ぶ）を彼がニューヨーク在住時、サザビーズオークションで落札したものを空輸して、ゐのはな分館図書館に寄贈、入ってすぐのところに展示されている。

続いて、ゐのはな同窓会館建設にあたり43卒の銘板が掲示されており、更には2017年、「卒後50周年基金」創設を願い相応の額を提示して、同窓会理事会で承認された。後輩学年もそれに続き、現在同窓会活動支援を目的に有効利用されている事が学年評議員からも報告されました。今回の43卒会で卒後・華甲（60年）に向けて同窓会、後輩達に千葉大みらい医療基金を含めて何か残せることがないか、これから3年間で企画してはどうかと提案があり幹事に一任された。残る時間は席を離れ、赤尾君のフルート演奏アンコールも含めバックグラウンドミュージックとし聞きながら、それぞれが楽しく話し、別れを惜しみながら、来年も此処で再会しようとお開きになりました。

（北原宏）

写真右から

前列：玉井輝章、玉井夫人、和泉佳子、舟橋満寿子、高岡邦子、盛克己、楊思勝、林雅恵、神津玲子、梶尾高根

二列目：北原宏、一瀬正治、唐澤祥人、磯村勝美、久野宗寛、鈴木秀、佐野元昭、高山直秀、星野聡、赤井壽紀、飯田秀治

三列目：藤塚光慶、中嶋弘道、千葉彌幸、諏訪敏一、滝川弘志、海野健、松清央、竜崇正、赤尾建夫

埼玉・栃木・茨城43ゐのはな会

令和7年（2025年）8月3日、大宮で埼玉・栃木・茨城43ゐのはな会を開催しました。今回で57回目になり、11名が集まりました。この会報への投稿は初めてなのでこれまでの経緯を簡単に記してみます。

平成元年（1989年）12月2日に第1回の集まりを大宮で持ちました。参加者は赤井壽紀、伊藤進、斎藤弘司、玉井輝章、滝川弘志、足立英雄、諏訪敏一でした。埼玉県に生活拠点を持ち、医師としての活動をしている同級生が集まり、親睦と情報交換の場を持とうという意図のもとではじまった会です。その後、埼玉県内だけでなく、小山（栃木）、下館・現在は筑西（茨城）の同級生たちからも大宮は来るのに便利と

いうことで参加することになり、今、現在千葉、秋田からの同級生も加わりました。この集まりを基に、ゴルフコンペの企画や唐澤祥人・日本医師会長就任の祝賀会などで集まっていました。

6月に開かれたゐのはな同窓会総会の会務報告のあと、今回の11名の参加者から近況報告がありました。卒後58年、それぞれのこれまでの人生経験で獲得したこと、自然と身についた立ち位置での興味深い話など、が聞けましたのでその一部を紹介します。

自身の病院でいつも通りに診療しているのに収益が上がらないとか、むしろ、下がってきた、とか、この会に参加するため、ぎりぎりまで日曜診療をやってきたとか、作業療法で、シフォンケーキを作っているが、上に載せるシャインマスカットの数が減り、物価高騰のあおりを受けているとか、強迫観念に駆られていまだに3,000m級の山に挑戦しているとか、自身のこれまで磨いてきた医療技術を地域医療向上に役立てるべく朝の始発電車で病院に出勤しているとか、健康維持のために長距離の歩行を心掛けていること、健康保険の窓口負担が3割から1割負担になったこと、療養病棟で何十年ぶりで書く死亡診断書が死因・老衰ばかりで、これでよいのかと悩むものなどなど。近況報告を聞いているとマネはできないが感心すること、よくやっていると拍手したくなるようなこと、時代の様変わりをいまさらながら思い知ることなどがありました。そして、何人かの人はこれからの自身の健康上の留意点や先々の気がかりな事を付け加えていたのが、昔のクラス会との違いかなと感じました。

酒の量も食べるのも少なくなったが、口数は達者な同級生の様変わりを感じ、次回もこんな集まりができるように皆で願い散会しました。

（諏訪敏一）

写真右から
前列：諏訪敏一、玉井輝章、玉井夫人
中列：星野聡、高山直秀、海野健
後列：東紘一郎、滝川弘志、竜崇正、久野宗寛、赤井壽紀、一瀬正治

平成23年卒同窓会

令和7年10月18日、東京駅近くの丸の内ガーデンタワー内の「SCeNT HOUSE DEN Marunouchi」にて平成23年卒同窓会が開催され、05Mの同期39名が集いました。これまでも小規模な集まりはありましたが、正式な同窓会の開催は卒業後初めてでした。

まずはるばる三重県から来てくれた早田有希君が誰よりも先に会場入りし、懐かしい面々を待ち構えます。

飲み物が運ばれる前からすでに会話に花が咲いています。今回の音頭を取ってくれた野島大輔君のいつもどおりの大きな乾杯の声で会が始まります。ひとしきりの歓談を行った後、一人ずつ手短な近況報告を行いました。

東京慈恵会医科大学で講師を務めている森啓一郎君、複数の医院を経営する福井悠君、NPO法人をはじめ4つの団体の代表を務める林伸彦君、長野の血内診療を担い夜行バスで参加してくれた大旗彩子君などなど多方面での活躍報告が続きます。

数名は海外留学中のため参加が叶いませんでしたが、中でもシンシナティからビデオ通話で参加してくれた田中雄一郎君、ありがとう。

奇しくも同日に看護学部の同期の同窓会が開催されていたとのことで、野島君の奥様となった海野文香君をはじめ数名の懐かしい顔ぶれも合流してくださいました。

今回胃腸炎で欠席となった藤田雄治君、理由は不明ですが当日キャンセルとなった有里裕生君はぜひ次回のご参加をお待ちしています。

参加者は半数弱となりましたが、卒業後14年目である本年、今回の開催にあたり91人に連絡が取れたことは非常に喜ばしく思います。

また節目の年に顔を合わせられることを願っています。

（椎名裕樹）

写真右から
1列目：椎名裕樹、伊藤みゆき、金愛理、藤巻晴香、佐々木梨乃、大旗彩子、横江絢子・怜奈、福井悠・緋菜子、小柳剛、野島大輔
2列目：熊谷仁、笈田諭、福田匡志、井福真友美、栗田健郎、糸井瑞恵、梶並由佳、松林理葉、江口紀子、青柳藍、佐々木亘亮、大橋浩一、水地智基
3列目：林伸彦、永澤由香、河本明代、海野文香、澤田尚人、佐藤広明、早田有希、日野裕太郎、樋口耕介、石塚理人
4列目：雨宮剛、明杖直樹、森啓一郎、伊藤俊一、一色佑介、若井健、宮部彰、下山恭平、菊永晋一郎

千葉大学医学部ホームカミングデー

卒後50年（昭和50年）卒業生
卒後25年（平成12年）卒業生
令和７年11月２日（日）　於　医学系総合研究棟　第一講義室

令和７年（2025年）11月２日（日）医学系総合研究棟（治療学研究棟）に於いて、昭和50年卒業生、平成12年卒業生をご招待し、千葉大学医学部ホームカミングデーが開催されました。

白澤浩ゐのはな同窓会副会長の開会の辞の後、吉原俊雄ゐのはな同窓会長、三木隆司千葉大学大学院医学研究院長の挨拶があり、千葉大学ゐのはな音楽部による弦楽四重奏の演奏の後、式典が行われました。吉原俊雄ゐのはな同窓会長より、卒後50年卒業生には感謝状と記念メダルが、卒後25年卒業生には激励状とロゴマークバッジが贈呈されました。医学系総合研究棟アクティブラーニングスペースで記念撮影を行い、閉会となりました。

写真左から　　**昭和50年卒業生**

最後列：伊藤彰一理事、諏訪園靖理事、栗原正利参与、平井康夫、野積邦義、富谷久雄、河内文雄、山岸文雄
三列目：白澤浩副会長、田邊政裕理事、渡辺良、沖本光典、村野俊一、増村道雄、中尾照逸、鴨下博、柴光年
二列目：戸塚清一、篠宮正樹、佐伯直勝、小久保茂樹、宮崎彰、横須賀收、山崎義和、麻生誠二郎、野口博史、野村文夫
最前列：佐野千寿子、高橋道子、勝呂慶子、三木隆司研究院長、吉原俊雄会長、高林克日己、沖本由理、内海勝夫、髙橋正志　（敬称略）

写真左から　　**平成12年卒業生**

最後列：栗原正利参与、伊藤彰一理事、白澤浩副会長、諏訪園靖理事、田邊政裕理事
二列目：小林豊、中田光政、藤田純一、幸部吉郎、立石順久、山嵜武、早野康一、山田義人、石沢武彰
最前列：横谷純子、梅木麻衣、三木隆司研究院長、吉原俊雄会長、武之内史子、石川真紀、大澤幸代　（敬称略）

参加者全員で

令和７年ホームカミングデー会場の様子

吉原俊雄 会長　挨拶

ゐのはな音楽部　弦楽四重奏演奏

三木隆司 千葉大学大学院
医学研究院長　挨拶

卒後50年（昭50）
卒業生代表　高林克日己 氏

卒後25年（平12）
卒業生代表　小林　豊 氏

令和８年度のホームカミングデーは

昭和51年卒業生（卒後50年）

平成13年卒業生（卒後25年）

上記学年の先生方をご招待し、
令和８年11月の開催を予定しております。

学内情報

ゐのはな同窓会支援
第16回 白衣式 会長からのエール

2025年11月28日（金）

ゐのはな同窓会長
吉原 俊雄（昭53）

白衣式に臨まれた学生の皆さんに、ゐのはな同窓会からのエールを送りたいと思います。

皆さんは入学後、医学の基礎から臨床に関わる様々な領域の分野を学ばれてきました。白衣式は医師になるための重要なステップで、これまでの知識を活かしていわゆる「student doctor」として病院の臨床実習に臨みます。患者さんとも直接接し、若手の医師としてみられるかもしれません。これまでご指導いただいた教職員の方々、そして何よりも最大の理解者であり支援者でもありますご家族の方々にも感謝を捧げてください。今後の一層の勉学の発展を期待すると共に、同窓会として惜しみない支援をして行きたいと存じます。頑張ってください。

【写真提供：フォトチョイス】

誓いの言葉

私たちは本日、白衣を身に纏いました。この白衣は、医療に携わる者としての誇りと責任の象徴であり、今改めて、人の命を預かる医療従事者としての重い責任を深く自覚しました。この自覚と新参者としての謙虚さを忘れず、生涯を通じて専門知識の更新と技術の向上に努めることを誓います。

私たちは、患者さん中心の医療を実践します。そのために、深い共感の姿勢をもって患者さん・ご家族の痛み、不安、希望に耳を傾け、十分な配慮と誠実さをもって寄り添います。利他の精神を持ち続け、患者さんとの信頼関係を最も大切にします。常に患者さんの健康を第一に考え行動し、病にだけではなく、患者さん一人ひとりの心・人生に向き合う医師を目指します。

私たちは、高い倫理観を持ち、医師としての責任を果たします。チーム医療の重要性を認識し、互いの専門性を尊重しながら他職種との連携を実践します。自己研鑽につとめ、最新の知見をもって最善の治療を提供することを約束します。

これらの志を胸に、社会における医師の役割を認識し、医療の実践を通じて人々の幸福に貢献します。そして、医師として、医療人として、人として精進し、成長し続けることを誓います。最後に、これまで私たちを導き、支えてくださった全ての方々へ、心より深く感謝申し上げます。

【写真提供：フォトチョイス】

【写真提供：フォトチョイス】

ゐのはな同窓会支援

亥鼻祭2025開催報告

亥鼻祭実行委員会サークル　委員長
医学部3年　乗貞　佑

令和7年11月2日、千葉大学亥鼻キャンパスにて亥鼻祭を開催いたしました。

当日は天候にも恵まれ、2,500名を超える皆様にご来場いただきました。

学生による屋台出店は19団体にのぼり、亥鼻キャンパスで活動する多くの部活動・サークルが参加しました。

亥鼻祭委員の写真

また、ご来場の中には千葉大学を志望する受験生も多く、約1,000名に達しました。受験生相談やキャンパスツアーの各企画はすべて満員となり、大変な盛況となりました。医学部企画では、外科体験や心エコー体験などを通して、受験生や子どもたちが熱心に手技を学ぶ姿が印象的でした。

さらに、医学部講演会では、千葉大学医学部医学教育研究院講師の笠井大先生をお迎えし、「医学教育と生成AI」をテーマにご講演を賜りました。生成AIの現状と教育現場での活用についてわかりやすくご説明いただき、学生から一般の方まで幅広い世代の皆様にご好評をいただきました。

本年度も、多くの先生方、企業・団体の皆様、そして何よりゐのはな同窓会の皆様に温かいご支援を賜り、無事に亥鼻祭を開催することができました。

改めて厚く御礼申し上げます。

来年度以降も、より魅力的な亥鼻祭を創り上げるべく、委員一同力を尽くしてまいります。

今後とも変わらぬご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

ゐのはな同窓会支援

第45回全日本医科学生オーケストラフェスティバル開催のご報告

池澤　伶香（医5）

令和7年7月30日から8月5日にかけて、静岡県伊豆の国市のホテルニュー八景園にて合宿練習を実施し、8月6日に横浜みなとみらい大ホールにて演奏会を開催いたしました。

本団体「全日本医科学生オーケストラフェスティバル（通称：夏オケ）」は、医科・歯科・看護・薬科系の学生による音楽団体および音楽同好会を統括する全国規模の組織として設立されました。オーケストラ活動を通じて音楽の奨励と発展に寄与するとともに、音楽を愛する医療系学生同士の親睦や情報交換を目的としています。

第45回を迎えた本年の演奏会では、千葉大学が主管を務める運びとなりました（ゐのはな音楽部部員29名、千葉大学医学部学生1名が所属）。

全国から総勢173名の学生が参加し、指揮には中田延亮先生をお迎えして、ムソルグスキー《展覧会の絵》（ラヴェル編）をメインに、ホルスト《組曲「惑星」より「木星」》、R.シュトラウス《ばらの騎士組曲》、そしてアンコールとしてワーグナー《「ローエングリン」より第3幕への前奏曲》を演奏いたしました。

合宿期間中は、学生同士、そしてご指導くださった指揮者およびトレーナーの先生方との交流を深め、音楽を共に作り上げる過程を通して、大学の垣根を超え多様な背景を持つ仲間と過ごした約1週間は、参加者一人ひとりにとって心に残るものとなりました。この活動を未来へと引き継いでいけましたら幸いです。

チケットの販売枚数は730枚、最終入場者数は656人にのぼり、盛況のうちに終演いたしました。開催に至るまでの準備期間を通じ、多くの方々のご支援のもとに本演奏会が実現したことを深く実感いたします。

最後になりますが、ご支援をくださった多くの企業・団体の皆様、OB・OGの皆様、会場をご提供くださったホテル関係者の皆様、指揮者の中田先生、トレーナーの先生方、全国から集まった学生の皆様、ご協力いただいたすべての関係者の皆様に、主管一同、改めて心より感謝申し上げます。

学生教育

ゐのはな同窓会支援
2025年度 東日本研究医養成コンソーシアム 第15回「夏のリトリート」に参加して

学生代表　椎名萌子（医5）

2025年8月19－20日に順天堂大学にて開催された、第15回「夏のリトリート」に参加いたしました。本会は医学生のリサーチマインドの涵養を目的としており、基礎研究に携わる学生が大学の枠を超えて交流する場となっています。東日本の複数大学による研究医養成コンソーシアムの一環として毎年開催され、研究発表や特別講演、懇談会を通じて医師・研究者としての視野を広げる機会となっています。私自身、本会を通じて研究の三つの意義を感じましたので、プログラムに沿ってご報告いたします。

1．学術的意義
―知を深める―

特別講演やポスター聴講では、新たな知見を得るだけでなく、以前聞いた内容や身につけてきた知識と関連付け「深く」咀嚼することができました。受け身で学ぶ段階から、相互的な対話を通じて研究を検討する段階へと成長できたと感じ、学びを「統合する」重要性を認識しました。

2．社交的意義
―人を繋げる―

交流を通して、学生同士のネットワーク形成に加え、研究に対する姿勢や将来のキャリアについても学ぶことができ、分野を超えた「繋がり」が築かれました。専門が定まっていない学生同士だからこそ、多様に努力する仲間と「触れ合う」価値を強く感じました。

3．内面的意義
―志を高める―

大学を代表して口頭発表の機会を頂きました。研究内容に留まらず発表スキルを追求してきたことで、伝えるという点において自信を持って臨むことができました。考察段階の内容に関する質問が多く答えにくい場面がありましたが、関心が集まる部分を把握し、今後に活かせる貴重な示唆を得ました。一方で、核心に迫る鋭い質問を投げかける学生を目の当たりにして、他分野を含めた総合的な理解スキルが及ばないことも痛感しました。極めてレベルの高いコンペティションから刺激を受け、研究「姿勢」や探究「心」をより一層磨いていく所存です。

最後にラボツアーに参加し、研究を支える基盤となる先端機器や施設の価値を学びました。千葉大学にも誇るべき研究環境が整っており、心から感謝するとともに、研究志向を持つ学生がさらに増えることを願っております。実際、今回本学からも複数の学生が受賞しており、演題が高く評価されたことを示しています。未熟ではありますが、この報告文がリサーチマインドを育む一助となれば幸いです。末筆ながら、学生発表に指導を賜りました田中知明先生（分子病態解析学教授）、ご同行頂きました坂本明美先生、小野寺淳先生、荻野智大先生、ならびにご支援くださいましたゐのはな同窓会の皆様に御礼申し上げます。

※来年は2026年8月15－16日、山梨大学を主管校とし、富士研修所にて開催される予定です。まさに「リトリート」の名にふさわしい場所で充実した時間を過ごせることを期待しています。

写真１・２　千葉大メンバー
坂本明美（バイオメディカル研究センター准教授・昭62）、小野寺淳（災害治療学研究所　次世代災害治療学研究部門教授・平18）、荻野智大（災害治療学研究所特任助教・令３）、室伏悠羽（医１）、山本青実（医１）、坂井陽葵（医２）、佐野友則（医２）、髙橋直毅（医２）、日野鶴乃（医２）、上野真幸（医３）、萱原慎太郎（医３）、菊地真穂（医３）、竹下光英（医３）、宮野ひなた（医４）、清野日香（医５）、椎名萌子（医５）

写真３　全体集合写真

会員から

ゐのはな同窓会支援
第50回「ゐのはな美術展」最終回のお知らせ

会期：令和7年9月8日（月）～9月14日（日）
会場：銀座ギャラリー向日葵

ゐのはな美術部部長　橋本英明（昭45）

同展は、銀座で50回も開催されて来た伝統ある絵画展です。

しかしながら、「令和7年9月8日～9月14日」を以て閉会する事になりました。閉会にあたっては、吉原同窓会長に当部会の現状を説明し同意を頂きました。その後、改めて会員一同で閉会を決定したという次第です。

部長の責任上、以下に閉会の理由を書かせて頂きます。

・「経費の無駄」＝同窓会から毎年「20万円」の助成金を頂いており、この他に各自、3万円の出品料を支払っております。

・「出品者数の減少」＝毎年、減少しており今回の出品者は6名（平均年齢は80歳）。この数年、新入会員は皆無。その結果、展覧会出品料の赤字が累積して来ている。しかし、同窓会にこれ以上の負担増をお願いできない事、加えて個人の出品料の増額もこれ以上は難しい。

・「来館者数の減少」＝毎年減少傾向にあり、今会期中は50名程度、しかも出品者の身内ばかり。無人島での展覧会のようで開催に意味があるのか疑問です。形ばかりの展覧会にこれ以上無駄な経費を掛けられません。

＊銀座での展覧会には三つの意義があります。

・絵描きとしての張り合い

・千葉大学医学部の広報手段の一つ

・後輩の皆さんに〝大都会の空気〟を吸ってもらう機会

千葉は温暖、温厚な風土に恵まれた環境にありますが、私は二つの点について心配しております。

(1)〝スピード感覚〟の低下と(2)〝人事交流〟の減少です。AIの時代、全てが劇的に変化している。そして東京には全てが集まっている。良くも悪しくも銀座、お茶の水、渋谷などの都会の雑踏が人々の感覚を磨き上げている（千葉大学の出先機関が江戸川区内に設けられたそうで、発展が楽しみです）。

＊「人生は短く、芸術は永し」はヒポクラテスの言葉、〝アート〟の本来の意味は「医療技術」の精進であり、〝絵画〟などの意味ではないそうです。しかし、彼は同時に有名な「ヒポクラテスの誓い」を強調しています。従って彼が意味した本来のアートの意味には、「医療技術」の他に「医療倫理」も含まれている筈です。すなはち、「医療技術＋医療倫理」。これは全ての医学徒が基本的に堅持すべき心得ですが、現代の医療はこれだけでは立ち行かない。さらに他の意味合いを加える必要があると思います。すなはち、

★アート＝「医療技術＋倫理＋AI＋〝経済〟」

従来の国立大学の経済感覚では、現況の膨大な研究費や医療費に追いつかない。今後は〝産学協同〟など、後輩の皆さんには新たな〝アート〟感覚を以て医学に精進する事を願っております。

＊今後は当部の助成金が研究費として活用されるよう望みます。

★ふるさと〝脳税〟をしよう!!

・無駄な酒代は母校の研究費として寄付しましょう。改めて、永らく助成下さった「ゐのはな同窓会」にお礼申し上げます。また、これまでの累積負債を免除して下さった「ギャラリー向日葵」斉藤誠一主宰にも感謝申し上げたいと思います。

写真右から　前列：島田哲男（昭41）御息女、後列：橋本英明（昭45）、菅ヶ谷純弘（昭45）、野口眞利（昭40）、吉川廣和（昭40）、榎本貴夫夫人、榎本貴夫（昭47）

第50回ゐのはな美術展　出品作品

氏　名	卒年	作　品
吉川　廣和	昭40	①静物A　②静物B　③25年間ごくろうさま ④山形蔵王初冠雪　⑤山形蔵王のある日
野口　眞利	昭40	①モンマルトル美術館　②レ・ムーラン　③雪の街 ④モンマルトルの家並　⑤モンマルトルの坂道 ⑥ムーランルージュ
島田　哲男	昭41	①裸婦　②婦人像Ⅰ　③婦人像Ⅱ
橋本　英明	昭45	①コロブチカ　②トアレグ族　③ロヒャンギ難民
菅ヶ谷純弘	昭45	①梅ケ島温泉　②サッカー場へ　③木洩れ日
榎本　貴夫	昭47	①春の雪　－宍塚大池・つくば市－ ②五色沼　－猪苗代・福島－ ③黄河　－シルクロード・中国－
宮下　久夫	昭38	（不出品）

第50回ゐのはな美術展　会計報告

【入金】	
出品料（40,000円×6名）	240,000円
不出品（10,000円×1名）	10,000円
ゐのはな同窓会より助成	200,000円
合　計	450,000円
【出金】	
会場費	420,000円
案内状代	20,000円
郵便・通信費	3,000円
搬入出・飾付アルバイト代（2名分）	0円
キャプション作成費	0円
受付（7,000円/1日×7日）	0円
芳名帳・筆ペン・梱包材・その他雑費	3,000円
合　計	446,000円

投稿のご案内

近況報告、随筆（エッセイ）、趣味、現代の医療問題についてなどの内容で奮ってご投稿ください。
原稿は1,000字程度で事務局まで！
ゐのはな同窓会事務局　e-mail：info@inohana.jp

課外活動団体だより

世界の医療を考える会OBOG会

世界の医療を考える会顧問
千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野
石和田　稔　彦（平2）

世界の医療を考える会は、平成2年卒の医学部学生が医進2年の時（1985年）に、看護学部、看護学校の学生等と一緒に作ったサークルです。今年度、新入生がたくさん入部したこともあり、代表の岡本渉真さんと相談し40周年を記念してOBOG会を開くことを計画し、2025年10月5日（日）ゐのはな同窓会館で開催しました。OBOG会では、サークル創設期について青木勉先生（平2）から、創設後期について、照井エレナ先生（平9）からお話を伺いました。

このサークルは、海外の医療について知りたいという有志によって作られ、最初はフィリピンで医療協力活動を行っていらっしゃった星野邦夫先生や福嶋正和先生のご支援のもと、セブ島・ボホール島等でのフィールドワークを中心にサークル活動を行っていました。その後、海外でのフィールドワークはなくなり、現在は、IFMSA（国際医学生連盟）の交換留学を主体に活動が行われています。

交換留学に関する活動については、医学英語サークル（MESSA）で主導されていた加藤佳瑞紀先生（平4）からお話を伺いました。その後の現在に至るまでの活動については、世界の医療を考える会の代表を務められていた周達仁先生（平28）、南研人先生（令2）、そして現代表の岡本さんからお話を伺いました。

OBOG会の後は、席を学内のMOKUに移し、懇親会を開催しました。OBOG会と懇親会の参加者は合わせると50名弱となり、大変盛況で、旧交を温め新しい知己を得る大変良い機会になりました。これを契機に新たなサークル活動が展開されることを期待しています。

今回、OBOG会を開催するにあたり、過去の活動報告や名簿などの情報を元に、学生さんが一生懸命ひとりひとり連絡をとってくださいました。現在OBOG会名簿を作成中ですが、まだまだ連絡のつかないOBOGの方が多くいる状況ですので、この同窓会報を見て、ご連絡いただける方がいましたら、以下のメール（岡本渉真：sho.okamoto2004@gmail.com）にご一報いただければ嬉しいです。よろしくお願いいたします。

令和９年版名簿発行のお知らせ

このたび、令和９年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。
「安全」「正確」なデータ管理のため、同窓会を総合的にサポートする専門会社㈱サラトに業務を委託しています。同社より確認はがきや名簿購入の案内を発送して作業を進めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

●名簿発行日：令和８年11月上旬
●体　　裁：変型A4判（約470頁）
●名 簿 価 格：3,300円（送料・税込み）

名簿作成委託先
株式会社サラト（兵庫県姫路市）のホームページ
https://salat.co.jp/

令和８年度 ゐのはな同窓会総会　案内

―東京ゐのはな会担当―

日　時：令和８年６月13日（土）

会　場：銀座アスター
　　お茶の水賓館（予定）

詳細につきましては、後日お知らせいたします。同窓の先生方のご参加をお待ちいたしております。

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。

電話　（０４３）２０２－３７５０
FAX　（０４３）２０２－３７５３
e-mail：info@inohana.jp

欧州医学史巡り

ローマ大学医学史博物館

杉田克生（昭54）

ローマ大学サピエンツァ（Sapienza Università di Roma）はローマ中央駅（テルミニ駅）から歩いて10分ほどの距離にある。医学、薬学、建築学、経済学、芸術・人類学、法学、理学（数学・物理・自然科学）政治学、工学（情報・コンピューター科学・統計学・産業）など11の学部を擁している。そのキャンパス内の一角に、医学史博物館（Museo di Storia della Medicina）がある。イタリアでは医学史は医学教育で必修となっており、医療の歴史資料が展示されている。興味深かった展示品をいくつか紹介する。

紀元前1世紀のデモクリトスの原子説に基づき、ビスニア（Bythnia）のアスクレピオス教団は、身体の穴（pore, イタリア語poroi）を通して流入する原子説を提唱した。病気は、この小粒子が体内で不規則な運動をすることに起因するとした。この教団の説が、ヒポクラテス・ガレノスのミアズマ説に発展した。

15世紀になると、従来のホスピタルは困難を抱えた貧者、捨て子などの支援所に加え、ヘルスケアの施設として急激に機能した。地域の救急施設として〝lazar house〟が当時ペストの流行した際に、治療ならびに隔離のため設立された。16世紀には、梅毒の蔓延のため、特殊病院として〝Incurables〟が創設された。17世紀中には、ホスピタルは医術の中心となった。

戦争や航海などにより増幅された人類の交流増に伴い、感染症が蔓延した。ヨーロッパでは「新たな病」として梅毒があった。当時イタリアでは、「フランス、ナポリあるいはインド病」と称された。梅毒（sypilis）なる病名は、フラカストロ（Girolamo Fracastori 1478-1553）による詞〝Syphilis sive de morbo gallico〟からとられた。いくつかの病気は、直接、間接あるいは媒介物により移される小粒子が原因とフラカストロは唱えた。

一方、ライ病の最終状態では、四肢の切断に至る。手、足、腕と脚の代替えに用いられた木製の義肢が展示されている。日本では梅毒やライ病の病態を図示したテキストが乏しい気がするが、歴史的観点から感染症を学び直すことは重要である。

神経学的に興味ある展示品も散見される。頭痛治療〝guarigione della cefalea〟として、司祭が頭の上に装着し、「聖なる施し」〝santo guaritore〟が鉄製の冠から体内にもたらされると考えた。電気ショック療法は、てんかんならびに実験てんかんの病態生理から発展した。長期の動物実験の一連の研究の後、チェルレッティ（U. Cerletti 1877-1963）が搬送された混迷患者にショック療法を実施した。その後いくつかのクリニックでうつ病や躁鬱病に有効性が示された。

近年の話題としては、R. Levi. Montalcini 1909-2012）神経成長因子をS. N. Cohen とP. U. Angelettiとの共同で、はじめセントルイス、その後ローマで分離し報告した。神経細胞は分裂、分化し、成長因子、受容体、遺伝子発現調節因子を介して免疫細胞など種々の細胞とネットワークを形成する。この結果、分子・細胞レベルと個体機能を連関する研究へ導いたことが展示されている。千葉大学でも、馬杉腎炎や川崎病など本学に関係ある先生方の業績を展示する施設があればと願うところである。

医学史博物館正面玄関

同窓会員著書の紹介

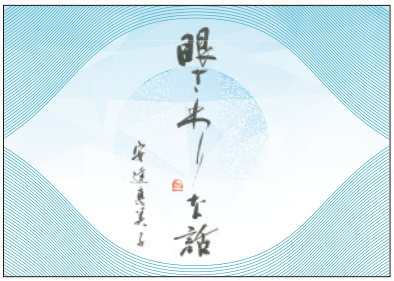
安達惠美子（昭37）著

「眼さわりな話」

正文社　非売品

2025年4月発行　Ⓑ5版　154編　377頁

※本著書は亥鼻分館に寄贈されております。



この度、退官後の無柳の日々にふと思い立ち、一つの冊子として再び日の目を見させることとしました。書き始めた時から30年近い年月が流れています。インターネットはもちろんChatGPTも使える現代とは比べ物にならない貧弱な情報入手方法しかない当時に、それぞれのエピソードを四苦八苦して収集し作り上げた当時を偲びました。写真、図の引用が主体のことから、版権のこともあり、自費出版という形をとっております。

眼科医の立場から見た文芸、芸術に関わる話とはなりますが、専門書ではなく、視覚がヒトの生きざまに如何にかかわっている様に興味を持っていただければ幸いです。

なお、本書の154編のうち59編は元の原稿に少し医学的内容を加えて〝眼に効く眼の話〟として、2003年に小学館より発行しています。

本書は、1996年より2007年までの11年間にわたり、年刊学術雑誌〝日本眼科臨床医報〟の「つゆうち」コーナーに書き続けたショートエッセイの収録です。

写真や図説を取り上げて歴史、文芸に現れている眼にまつわる資料を眼科医の立場から考察し、名付けて**フォトエッセイ**としていました。一話一話は短いものですが、活字にする以上は覚悟をもって間違いのないように出典を海外の友人にもご協力いただき、寸暇をぬって集めました。

開催予定の行事をお知らせ下さい

学会、研究集会、ゐのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について、同窓会事務局へお知らせ下さい。本会報に掲載いたします。なお、本会報の発行月は1月、5月、9月です。

追悼

石出猛史 先生（昭52）

長年にわたり、ゐのはな同窓会報に「雑文雑談」をご寄稿くださいました石出猛史先生（昭52）が、令和7年8月16日にご逝去されました。

ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

埼玉ゐのはな会

第26号　2025年８月

埼玉ゐのはな

千葉大学医学部ゐのはな同窓会埼玉県支部

第26号　2025年８月

埼玉ゐのはな　第26号　2025年（令和７年）

目次

◉ご挨拶
巻頭言　吉川廣和　1
◉お知らせ　埼玉県支部総会のご案内　2
◉お祝い
米寿　米寿に叙勲の人生　飯田昌義　3
米寿　米寿を迎えて　三木　亮　4
米寿　米寿の記念によせて　根岸敬矩　5
米寿　米寿にあたり　妹尾素淵　6
喜寿　喜寿になりました　木村　純　11
◉退任挨拶
深谷赤十字病院院長退任にあたり　伊藤　博　13
◉話の広場
随想　近況　永田一郎　15
聞いただけの話　松本　生　16
アキレスの踵　松本　生　18
道落の話　諏訪敏一　20
全日本医師ボウリング大会　中島　透　24
医療現場の気になる言葉　市岡　滋　26
◉趣味
短歌　日常属目詠（其の四）　根岸敬矩　29
趣味　画廊クリニックとバロック音楽　上野　泉　34
天体写真録（14）Arp atlas of peculiar galaxies
ホルトン・アープの特異銀河アトラス その３　杉浦敏之　44
◉病院近況
さいたま赤十字病院での
早期大腸癌診療の現状と課題　髙橋正憲　56
社会医療法人熊谷総合病院　平山信男　63
神経内分泌腫瘍に対する放射性医薬品を用いた
PRRT（ペプチド受容体放射線核種療法）　清水　怜　65
◉埼玉県支部から
ご挨拶とお願い・令和６年度埼玉県支部決算報告　中村　勉　69
年会費納入者名　お祝いとお悔やみ　70
埼玉県支部規約　71
お願い・原稿募集　72
表紙写真のご案内　今野　慎　73
編集委員・編集後記　今野　慎　74

栃木県ゐのはな会

令和７年　第22号

とちぎ　ゐのはな

令和７年　第22号

栃木県ゐのはな会

千葉大学医学部ゐのはな同窓会栃木県支部

とちぎ　ゐのはな　第22号

目　次

巻頭言
巻頭言……森本　直樹（平３卒）……1
総会
令和７年 栃木県ゐのはな会 総会プログラム……2
令和６年 会計報告……吉住　博明（平11卒）……3
監査報告……戸邉　豊総（平１卒）、宍戸　忠幸（平８卒）……3
令和７年栃木県ゐのはな会総会……4
総会写真……5
栃木県ゐのはな会総会に参加して……吉原　俊雄（昭53卒）……11
特別講演
集学的治療時代の胆道癌診療……大塚　将之（昭63卒）……12
ミニレクチャー
インスリン抵抗性をターゲットにした
子宮体癌の新たな治療戦略……三橋　暁（平２卒）……14
関連病院だより
上都賀総合病院の近況報告……吉住　博明（平11卒）……15
とちぎメディカルセンターしもつがの近況……北林　宏之（平12卒）……16
自治医科大学便り2025……照井　慶太（平10卒）……17
済生会宇都宮病院……戸邉　豊総（平１卒）……18
獨協医科大学下部消化管外科……石塚　満（平３卒）……19
エッセイ
栃木県での４年間を振り返って……安藤　克彦（昭60卒）……21
高齢者の幸せ求めて……本多　陸人（昭42卒）……22
宇都宮市夜間休日救急診療所……宍戸　忠幸（平８卒）……24
昨今うつのみや独り呑み事情……須田　啓一（昭52卒）……25
プロフィール
ご挨拶……知久　毅（平１卒）……26
新保　正貴（平11卒）……27
小川　真司（平３卒）……29
左　勝則（平18卒）……30
表紙写真・編集後記……31
会員名簿……32
栃木県ゐのはな会 会則……35

第19回 ちば Basic & Clinical Research Conference

令和8年1月29日(木) 12:50 ~ 17:00
ゐのはな記念講堂

総合司会　2年 金本拓海
　　1年 矢野愛子

12:50 開会の辞

千葉大学災害治療学研究所　次世代災害治療学研究部門教授　小野寺淳先生
ちばBCRC学生事務局代表　栗原諒

13:00 学生発表 座長 椎名萌子, 日野鶴乃

『腫瘍反応性T細胞受容体発現NK細胞療法の開発』
医学部5年　野村安里

『末梢血免疫フェノタイピングによる免疫疾患病態の解析』
医学部5年　纐纈裕理

『CD8T細胞の機能分化を制御するCD69を標的とした新規がん免疫療法の開発』
医学部4年　宮野ひなた

『SARS-CoV2感染による血管壁損傷』
医学部2年　高橋輝多

『TET酵素制御によるNKTがん免疫療法の開発と臨床応用』
医学部3年　竹下光英

『膠芽腫幹細胞に対するマクロファージの貪食活性制御』
医学部5年　川井康平

14:30 講座紹介 座長 薬理学教授 安西尚彦先生

『機能形態学の紹介ー歴史と研究ー』
機能形態学教授　山口淳先生

『脳神経外科手術と科学の融合』
脳神経外科学教授　樋口佳則先生

15:20 表彰

疾患生命医学准教授　坂本明美先生
ゐのはな同窓会長　吉原俊雄先生
千葉大学大学院医学研究院長　三木隆司先生

15:30 講評

千葉大学大学院医学研究院長　三木隆司先生

15:55 特別講演 座長千葉大学災害治療学研究所次世代災害治療学研究部門教授 小野寺淳先生

『From mouse to human』
細胞分子医学教授　古関明彦先生

16:55 閉会の辞

機能形態学教授　山口淳先生

世話人 (敬称略)
徳久剛史, 中谷晴昭, 高橋和久, 白澤浩, 安西尚彦, 中島裕史, 大鳥精司, 山口淳, 小野寺淳, 坂本明美
主催: 千葉大学大学院医学研究院・医学部
共催: 千葉医学会, ゐのはな同窓会, ちばBCRC事務局 (栗原諒、鈴木雄大、椎名萌子、川井康平、宮野ひなた、嶋﨑悠斗、原田千穂、萱原慎太郎、竹下光英、日野鶴乃、金本拓海、高橋輝多、矢野愛子、韓笑成、瀬座康介、安藤拓光、堀内佑)

事務局 千葉大学次世代in vivo 研究探索センター内
担当: 坂本明美
内線7901
sakamoto@faculty.chiba-u.jp

令和7年度　第2回理事会議事要旨抜粋
（Zoom利用によるWeb会議）

日　時：令和7年10月15日（木）18時～

出席者：
吉原俊雄（会長）
白澤　浩（副会長）
黒木春郎（副会長）
安西尚彦（副会長）
伊藤達雄（参与）
吉川廣和（顧問）
幡野雅彦（会計監事）
赤倉功一郎　伊藤彰一
井上賢治　岡本和久
島　正之　諏訪園靖
髙橋宏和　田邊政裕
鶴田好孝　中島　透
ピアス洋子　菱木知郎
平澤　晃　星野　聡
松前孝幸　宮本恒彦
森本直樹　横須賀忠
（敬称略）

吉原俊雄会長が議長となり協議が進められた。

議題

1．報告事項

(1)予算執行状況（中間報告）

伊藤彰一理事より資料に基づき、収入について、会費は現時点で昨年度よりやや少なめである。事業収入は例年通りの推移。寄付金は千葉大学病理同窓会、同窓会賞を受賞された石川広己先生（昭55）から寄付があった。支出について、総会費は亥鼻キャンパス内での開催のため予算以内の支出となっている。理事会費については、4月に対面で開催した会場利用料、交際費は慶弔費として供花代等、備品は事務局のパソコンを買い換える必要が生じ使用。ゐのはな同窓会賞は賞金として社会貢献賞・功労賞それぞれ二名ずつ、楯の制作費となっている。ゐのはな美術展は今年度が最後の開催となり最後の助成。予備費から長尾精一先生の胸像再建の映像編集代を支出した事が説明された。

(2)ホームカミングデー

安西尚彦副会長より卒後15年（平22）の先生に声をかけたが、残念ながら参加者がいない状況。今後に向けて下準備をしてから開始をすることが報告された。

2．協議事項

(1)令和8年度総会

吉原俊雄会長より令和8年6月13日（土）に東京ゐのはな会担当で総会を開催し、講演会の企画についても担当支部の意向に合わせて進めることが説明された。

(2)役員について

吉原俊雄会長より大学支部の新理事中田孝明氏（平11）の推薦について説明があり、承認された。

(3)ゐのはな同窓会賞について

吉原俊雄会長より令和8年度ゐのはな同窓会賞の推薦がある場合は事務局へ連絡するよう依頼があり、過去の受賞者はホームページに掲載していると説明された。

(4)卒後50年基金の活用について

昭和43年卒業の先生方より、寄付の申し出があり、卒後50年基金が創設された。卒後50年基金申し合わせ「2．本基金は、ゐのはな同窓会の活動を支援する目的に用いるものとする。」に修正することが承認された。

(5)同窓会館の修繕について

吉原俊雄会長より建物の修繕については同窓会で費用の一部を基金から出すなど今後検討が必要になると説明がされた。

現在の窓口は本部の施設環境部になり、大学の基金室を通じて寄付を行うことで税制上の利点も得られるとの提案があった。

ネーミングライツについても提案があった。

(6)學友會報（昭和8年3月～18年10月、昭和23年6月～31年3月）の電子化について

吉原俊雄会長より千葉医大の同窓会資料の電子化について説明があり、予備費を使用して進めることで承認された。

他にも電子化されていない貴重な資料があるので、保存について引き続き検討することとした。

(7)千葉大学基金寄附依頼の同窓会報への同封について

千葉大学校友会依頼で例年どおりと報告された。

3．その他

(1)吉原俊雄会長より千葉大学医学部の資料の整理をしていただいている千葉大学大学院工学部准教授頴原澄子先生から終了後に調査報告について、会報に寄稿いただく予定であると説明がされた。

(2)吉原俊雄会長より今年度の千葉大学校友会の副会長として園芸学部同窓会「戸定会」会長の齋藤京子様とゐのはな同窓会長の2名が選出された。安西副会長と共に園芸学部（松戸キャンパス）を訪問してお話しを伺ったと報告があり（2面に掲載）、次回は教育学部の同窓会長とお会いする予定とのこと。

千葉大学ゐのはな同窓会の皆様へ

「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：2025年3月1日午後4時～2026年3月1日午後4時（中途加入随時受付）

5つの安心で、先生方の日常をしっかりサポート

医療業務中の万一に備えて
高額化する医療訴訟に対応
支払限度額 ナント…
3億/9億
対人 1事故 / 保険期間中
Z3タイプ登場！免責金額なし
安心1

合計最長7年の長期補償
働けなくなった時の
収入減少を補償
安心2

先進医療も補償！
入院・手術を補償
安心3

特定感染症も地震によるケガも補償！
日常生活をお守りします
安心5

突然の必要に備えて
介護を補償
安心4

※パンフレット等資料のご請求やお申込みは、右記取扱代理店までお問い合わせください。
中途加入の場合、毎月20日までに頂いたお申込みにつきまして、翌月1日が補償の開始日となります。

【お問合せ先・取扱代理店】
PIONEER 株式会社パイオニア
Tel: 0120-36-8442（平日8:45～18:00）
https://www.pioneerltd.com
【資料請求はこちらから】

この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。
また、ご加入にあたっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります約款および特約によりますが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。

【引受保険会社】東京海上日動火災保険株式会社（担当部）医療・福祉法人部 Tel: 03-3515-4143（平日9:00～17:00）　2025年6月 25TC-000287

おくやみ

新井　邦男（専23）
恒元　博（金沢医大・昭27）
武村　俊二（昭29）
山野　元（昭31）
原　富士雄（昭32）
伴野　恒雄（昭34）
羽田　忠（昭34）
岡田　信道（昭36）
川村　孝子（昭36）
野本　一夫（昭36）
長谷川幸子（昭36）
山角　博（昭36）
佐藤　裕俊（昭38）
松井　宣夫（昭38）
武者　廣隆（昭40）
萩原　奉祐（昭46）
長谷部正晴（昭48）
片桐　誠（昭49）
鈴木　勝（昭50）
圓井　芳晴（昭50）
宮内　大成（昭50）
石出　猛史（昭52）
田村　雅治（昭56）
片山　薫（昭59）
町田　利生（平5）
須ノ内康太（産業医大・平7）

編集後記

今号は、記念すべき第２００号を目前に控えた第１９９号をお届けいたします。

来たるべき大きな節目、第２００号という一つの歴史の到達点を前に、この同窓会報が歩んできた道のりを、改めて深く振り返ってみたいと思います。半世紀以上にわたり、多くの同窓生の皆様の絆を結び続けてきた会報の重みを、ひしひしと感じています。

会報の歴史は、昭和34年に第1号が新聞形式で発刊されたことに始まります。この新聞形式は50号まで続きましたが、その後、昭和47年には、より保管に適したB5版へと版型が移行しました。

私自身が編集委員会に参加させていただいたのは、ちょうど折り返し地点を過ぎた第１０２号からのことです。それまで受け継がれてきた伝統を守りつつ、時代の変化にも対応していく必要がありました。特に、第１０９号からは現在のA4サイズへと版型を大きく変更し、それに伴い編集方法や制作プロセスも大きく変わり、委員一同で試行錯誤を重ねたことが思い出されます。

さらに、会報の進化を示す大きな転機となったのが第１６１号です。この号から全面的にカラー化を実現し、紙面は内容の充実だけでなく、見た目にも鮮やかで、より魅力的なものへと進化を遂げました。在校時の懐かしい写真や、卒業生の皆様の生き生きとした近況報告を、色彩豊かにお届けできるようになり、会報の価値がさらに高まったと自負しております。

この長きにわたる会報の歩みは、ひとえに、原稿をご寄稿くださった皆様、編集作業にご協力いただいた皆様、そして何よりも、発行を楽しみに会費を納めて支えてくださった全ての同窓生の皆様の温かいご支援の賜物です。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

同窓会報の歴史は、母校の歴史そのものであり、同窓生の皆様の人生の記録でもあります。その貴重な歴史は、ホームページにて第1号から全てデジタルアーカイブとして公開されております。ご興味のある方は、ぜひ一度アクセスし、ご自身の青春の足跡をたどってみてください。

いよいよ迎える節目の２００号、そしてその先に向け、編集委員会一同、今後も同窓生の皆様にとって「開かれた窓」であり、心の拠り所となる「愛される会報」であるよう、更なる企画と編集に尽力してまいります。皆様の変わらぬご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

白澤　浩（昭57）

千葉医学101巻３号　2025年９月

最終講義
脳神経内科学　－神経治療学の明日を目指して－　桑原　聡

研修報告
2024年度予防医学センター主催
大学院医学薬学府ヨーロッパ研修ツアー開催報告
戸髙恵美子　頓名　幸　森　千里
ドイツにおける共催集中講義
～持続可能な未来へのアプローチ“Environment, Climate Change and Health”を振り返って～
頓名　幸　山本　緑　越坂理也　坂部　貢
戸髙恵美子　柏原　誠　森　千里

学　会
第1511回千葉医学会例会・第45回歯科口腔外科例会
第1515回千葉医学会例会・令和６年度内分泌代謝・血液・老年内科学例会
第1523回千葉医学会例会・第42回千葉精神科集談会

編集後記　安西尚彦

第17回（2025年度）千葉医学会賞・奨励賞　受賞者決定

Chiba Medical Journal

Original Article
Parental origin of chromosome sets in human embryos derived from tri-pronuclear zygotes
Maki Fujita, Hirokazu Usui, Saori Nakahashi, Hiroshi Ishikawa, Tatsuya Kobayashi, Naoki Aoyama, Yasunori Sato, Yasuhito Michikura, Keiichi Kato, and Makio Shozu

Case Report
Rapid tumor growth due to cavernous malformation-like lesion during long-term follow-up of gamma knife surgery for vestibular schwannoma
Nao Watanabe, Kyoko Aoyagi, Shigeki Nakano, Yoshinori Higuchi, and Masayuki Ota

---

千葉医学101巻４号　2025年12月

最終講義
泌尿器科学　－泌尿器科医40年を振り返って－　市川智彦

原　著
NDBオープンデータを用いた高齢者に対する抗うつ薬の処方実態
菊地信示郎　坂巻顕太郎　吉村健佑

症　例
初経発来前の周期的腹痛を呈し診断までに３年を要した，処女膜閉鎖による月経モリミナの13歳女児
松浦　玄　小原由紀子　三瀬直子

千葉医学会奨励賞
IL-21によるγδT17細胞サブセット選択的制御
－基礎研究知見と臨床応用への課題－　石川絢一

学　会
第1520回千葉医学会例会・第14回臨床研修報告会
第1527回千葉医学会例会・第51回千葉泌尿器科同門会学術集会
第1533回千葉医学会例会・第52回千葉泌尿器科同門会学術集会
第1531回千葉医学会例会・第２回千葉大学社会医学同門会例会

研究報告書
2024年度猪之鼻奨学会研究助成金研究報告

編集後記　大塚将之

第18回（2026年度）千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について
第19回ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせ
101巻総目次・索引

Chiba Medical Journal

Original Article
Nivolumab augments antitumor activity of invariant natural killer T cells
Mami Negawa, Fumie Ihara, and Shinichiro Motohashi

―― 会報199号編集委員 ――

菱木　知郎（平５）編集委員長
杉田　克生（昭54）　白澤　浩（昭57）
剣持　敬（昭58）　今野　慎（昭62）
小島　広成（平３）　宍戸　忠幸（山梨医大・平８）
大西俊一郎（平17）　（敬称略）